

# 事業者の行動チェックリスト

## 柱1 地球温暖化・エネルギー対策

### エネルギー使用量を減らす

<日常生活における省エネ行動を実施する。>		確認欄
1	事務機器を節電・待機モードへ切り換える。	
2	廊下等の照明の間引きを行う。	
3	昼間の消灯や照明器具の清掃等を実施する。	
4	積極的に階段を利用し、エレベーターの使用を抑制する。	
5	冷暖房の設定温度を適切にするとともに、空調機器の吹き出し口の開放やフィルターをこまめに清掃する。	
6	クールビズやウォームビズを実施する。	
7	自動車を利用する際には、エコドライブを徹底する。	
<省エネ設備・機器を導入する。>		
1	照明をLEDに交換する。	
2	トイレ、非常階段等には人感センサーを設置する。	
3	省電力のOA機器を採用する。	
4	専門家の助言などを踏まえ、事業の形態や事業所の状況に応じた高効率な機器の導入を検討する。	
<住宅の建築・改築の際に省エネ化する。>		
1	省エネルギーに関する目標を定める。	
2	屋根、外壁等の断熱を強化し、二重窓や複層ガラスを採用する。	
3	自然採光、自然通風を取り入れる。	
4	建物や配管等の長寿命化を図る。	
5	専門家の助言などを踏まえ、事業の形態や事業所の状況に応じたエネルギーマネジメントシステムの導入を検討する。	
<環境に配慮した交通手段を選択する。>		
1	なるべく自動車を使わず、自転車や鉄道、バスを利用し、自動車の運行台数を減らす。	
2	環境負荷の少ない自動車（燃料電池自動車、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、ハイブリッド自動車など）に買い替える。	
3	自らの配送から共同配送や運送会社の活用などに切り替え、輸送の効率化を図る。	

### エネルギーをつくる

1	電力会社を選ぶときは、CO <sub>2</sub> 排出係数など環境性能も考慮する。	
2	事業の形態や事業所の状況に応じて、太陽光発電、太陽熱利用など、再生可能エネルギーの導入を図る。	
3	電気や燃料などのエネルギーを購入する際、低炭素なエネルギーの選択に配慮する。	
4	グリーン電力証書を活用し、再生可能エネルギー由来の電力を使用する。	
5	事業の形態や事業所の状況に応じて、周辺の未利用エネルギー源（清掃工場排熱、下水処理施設排熱、変電所排熱、地下鉄排熱など）を調査し、未利用エネルギーの活用を図る。	
6	事業の形態や事業所の状況に応じて、環境負荷の低減や非常時対応等の観点から、蓄電池や燃料電池車や燃料電池の導入に努める。	

### 気候変動に備える

1	従業員等の熱中症を予防する。	
---	----------------	--

# 事業者の行動チェックリスト

2	災害時の避難や事業活動などについてあらかじめ考えておく。	
3	地球温暖化や極端な気候の増加が事業に与える影響を分析・理解・共有し、対応策を考える。	
4	暑さを緩和する打ち水等を実施する。	
5	森林のCO <sub>2</sub> 吸収量によるカーボン・オフセットの活用や、建物や調度品などの木材利用により、森林のCO <sub>2</sub> 吸収作用の維持・増大を支援する。	